

# 月刊しばうら

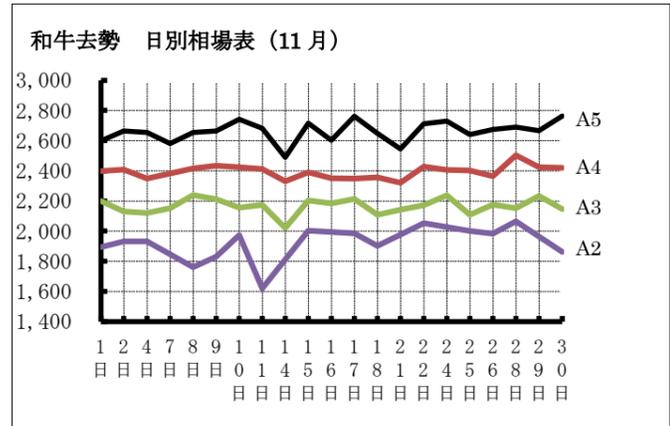
## 2022年12号

### 牛肉営業部

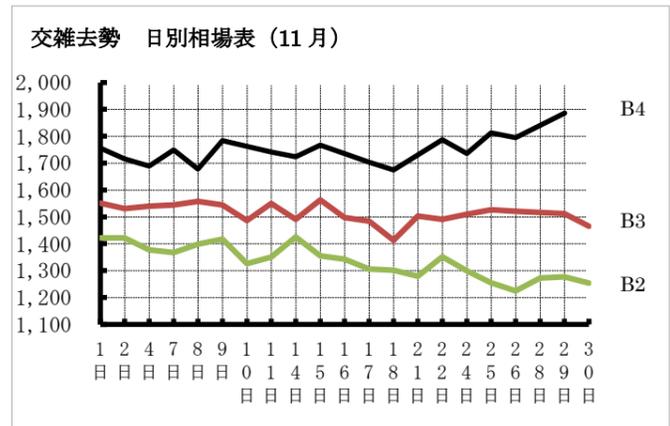
#### <11月の相場動向>

海外入国者数の上限撤廃や、全国旅行支援事業により、人の往来が増えつつあり、相場回復にも期待が膨らんだ。しかし実際は、11月が例年最も牛肉需要の少ない月であることに加え、新型コロナウイルス新規感染者数の急拡大に相殺される形となり、相場はほぼ前月並みの展開となった。

長期化する円安や、ロシアによるウクライナ侵攻の影響を受け、食料、エネルギー資源の価格が高騰し、度重なる物価上昇による生活防衛意識の高まりから、購買意欲の減退が見られ、引き続き、牛肉需要は回復が難しい状況下にある。



	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,675円	-65円 97.6%	-4円 99.9%
A4	2,395円	-82円 96.7%	42円 101.8%
A3	2,174円	-75円 96.7%	40円 101.9%
A2	1,940円	23円 101.2%	121円 106.7%



	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,729円	44円 102.6%	25円 101.5%
B3	1,518円	44円 103.0%	-12円 99.2%
B2	1,337円	45円 103.5%	-21円 98.5%

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	1,155円	133円 113.0%	65円 106.0%

#### <12月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、10月の輸入量は前年同月比11.9%減の4万8,636tで、うちチルドは29.0%減の1万4,556t、フローズンは、前年同月比11.8%減の3万4,080tとなった。

農畜産業振興機構によると11月の牛肉輸入数量は、前年同月比6.2%増の4万5,300t(チルド2.2%増・フローズン8.8%増)、12月は前年同月比0.2%減の4万5,600t(チルド13.4%減・フローズン10.9%増)と予測している。12月は現地価格の高止まりや円安の影響を受け、チルドは前年同月を大幅に下回り、フローズンはチルドの代替需要もあり、前年同月を大幅に上回ると予測されている。

	10月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	5,184	6,877 75.4%
	米国	7,976	11,205 71.2%
	その他	1,396	2,423 57.6%
	合計	14,556	20,505 71.0%
フローズン	豪州	12,497	16,406 76.2%
	米国	13,889	9,253 150.1%
	その他	7,694	9,036 85.1%
	合計	34,080	34,695 98.2%

出典：食肉速報 単位：t

#### <12月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による12月の出荷予測頭数は、全体で前年比108.9%の10万6,500頭で、品種別にみると和牛は9.0%増の5万1,600頭、交雑種は22.2%増の2万6,000頭、乳用種は0.9%減の2万7,200頭と予測している。

東京食肉市場の12月のと畜頭数は8,000頭を予定しています。

#### <12月の牛枝肉相場見通し>

海外入国者数の上限撤廃や、全国旅行支援事業の影響を受け、観光産業などの経済活動は活性化しつつあるが、新型コロナウイルスの感染再拡大につながっており、外食需要の動向は依然として不透明な状況下にある。

ロシアによるウクライナ侵攻や、円安の長期化による物価上昇のため、家計は逼迫し、牛肉需要の拡大への逆風となるが、牛肉需要の最大の山場である年末年始に、日頃の節約志向の反動による需要拡大に期待したい。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,600~2,850	B4	1,650~1,850
A4	2,350~2,550	B3	1,450~1,600
A3	2,150~2,300	B2	1,300~1,400
A2	1,950~2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,000~1,050		

### 豚肉営業部

10月の全国と畜頭数は、前年同月比1.8%減の139万1,052頭。また10月の豚肉通関数量は7万5,804t(前年同月比2.7%減)と前年同月を下回り前月比では4.4%の増加となった。内訳はチルドが2万8,199t(16.0%減)、フローズンは4万7,604t(7.3%増)となった。

月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
10	76,972	77,876	21,359	161,448	77,317	81,919
11	82,305	78,461	21,604	154,751	81,908	85,158
12	82,143	74,466	22,912	145,676	80,677	83,541
1	79,561	82,518	23,226	154,046	79,136	74,148
2	73,703	71,813	23,161	156,035	73,664	69,824
3	83,139	71,938	24,001	156,094	82,191	71,779
4	76,226	108,81	22,232	169,980	77,840	94,930
5	72,433	77,418	22,442	176,959	72,091	70,439
6	73,206	89,288	21,153	192,277	74,366	73,970
7	67,448	83,013	21,249	200,051	67,235	75,239
8	70,579	86,492	20,365	207,966	71,378	78,577
9	72,682	72,520	19,371	204,472	73,540	76,014
10	75,562	75,744	19,698	196,107	75,147	84,109
比	98%	97%	92%	122%	97%	103%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	14,564	89.5%	デンマーク	8,116	108.3%
カナダ	11,509	76.1%	スペイン	13,444	96.2%
メキシコ	2,110	98.1%	メキシコ	7,701	109.3%
			アメリカ	1,984	97.3%
			カナダ	2,692	97.0%
合計	28,199	84.0%		47,604	107.3%

単位：t

#### <11月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	71,400	563	547	1,073
2日	72,700	570	566	828
4日	67,700	575	575	1,035
7日	69,900	599	591	827
8日	66,900	596	586	1,085
9日	69,000	609	589	812
平均	69,600/日			943/日

3日が祝日だったこともあり、一時的に全国頭数は7万頭を超えた。気温の低下に伴い、本格的な鍋物の需要期に入り、引き合いが強まったことで、上中格差なく底堅い展開となった

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	69,900	580	564	858
11日	65,000	565	552	1,064
14日	69,500	551	540	829
15日	66,600	553	541	936
16日	66,900	555	539	688
17日	70,500	553	547	724
18日	68,300	559	547	921
平均	68,100/日			860/日

為替や入船遅れなどの影響から、輸入チルドポークの供給環境が不安定な状況となり、国産豚肉の需要は安定した。また、凍結在庫へ向けた引合いもみられたことで、相場も大きく下げることはなかった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	68,900	568	562	707
22日	73,900	569	565	958
24日	70,300	561	556	948
25日	69,900	554	544	1,080
28日	66,900	551	538	772
29日	70,100	553	537	932
30日	69,200	555	541	658
平均	69,886/日			865/日

全国と畜頭数はこの時期としては多くはないが、7万頭を上回る日が増えてきた。引き続き需要は底堅く推移し、祝日前後の引き合いが強くみられた。

#### <12月豚枝肉相場見通し>

農林水産省による12月の肉豚出荷予測では147万7,000頭(前年同月比98%)と予測している。当市場の12月集荷予定せり頭数は1万9,000頭、1日あたりでは約863頭を見込んでいる。

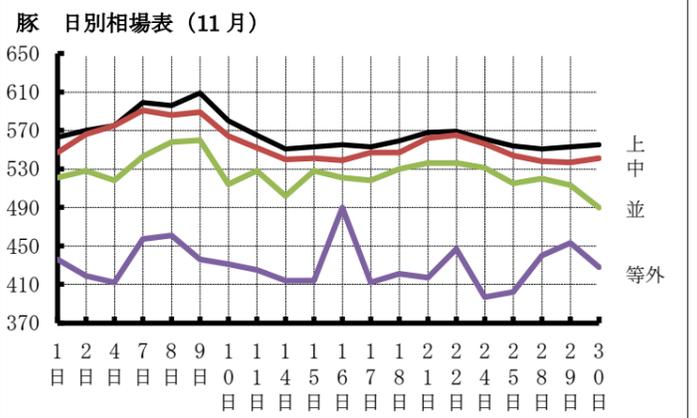
農畜産業振興機構によると12月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万5,200t(前年同月比101.0%)、内訳は冷蔵輸入量が3万2,000t(同104.6%)、冷凍輸入量は4万3,200t(同98.5%)と予測。

冷蔵品輸入量は、前年同月のカナダからの輸入量が、洪水の影響を受け少なかったため、前年同月をやや上回ると予測する。一方、3ヵ月平均では前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は現地価格の高止まりや、為替相場の変動の影響を受け、前年同月をわずかに下回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同期をわずかに下回ると予測する。

例年12月は上旬から中旬にかけて鍋物需要などの盛り上がりによって豚肉の引き合いが強くなり、下旬からクリスマスにかけて鶏肉にシフトする傾向がみられるが、今年は鳥インフルエンザの発生によって鶏肉の需給は比較的タイトとなることが予測され、鶏肉価格の高騰によって、豚肉の引き合いが強まる可能性がある。また、全国旅行支援事業の期間延長が決まり、観光地を中心とした外食需要に期待が高まるが、新型コロナウイルス感染増加に伴い、内食需要に切り替わる可能性があり、相場は全体的に強含みで推移するものと思われる。

以上のことから当市場の上物平均価格は600円前後、中物平均価格は570円前後の展開と予測する。



東京都港区港南 2-7-19  
 東京食肉市場株式会社  
 TEL:03-9740-3111 FAX:03-3472-0127